

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭60-99404

⑤ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 昭和60年(1985)7月6日

F 24 C 7/02

B-6783-3L

審査請求 有 (全5頁)

⑭ 考案の名称 調理機器の内箱

⑰ 実 願 昭58-191849

⑱ 出 願 昭58(1983)12月12日

⑲ 考 案 者 江 波 俊 明 奈良県生駒郡平群町大字櫛原47の2

⑳ 出 願 人 株式会社 エナミ精機 八尾市若林町2丁目3番地

㉑ 代 理 人 弁理士 深見 久郎 外2名

㉒ 実用新案登録請求の範囲

開口部を有する前板、筒状の胴部および後板を備え、

前記前板の前記開口部周縁と前記胴部的前端縁ならびに前記胴部の後端縁と前記後板の外周端縁とが、それぞれ、カーリング加工により接合されてなる調理機器の内箱において、

前記前板の開口部周縁および前記胴部的前端縁には折曲部が形成されており、

一方の折曲部には孔が設けられており、

他方の折曲部には、前記孔よりも相対的に大きくかつ前記孔と異なる平面形状を有し、前記孔に少なくとも一部が嵌合する係止突起が設けられており、

前記前板および前記胴部がカーリング加工により接合されて、前記係止突起の少なくとも一部が前記孔に嵌合されていることを特徴とする、調理機器の内箱。

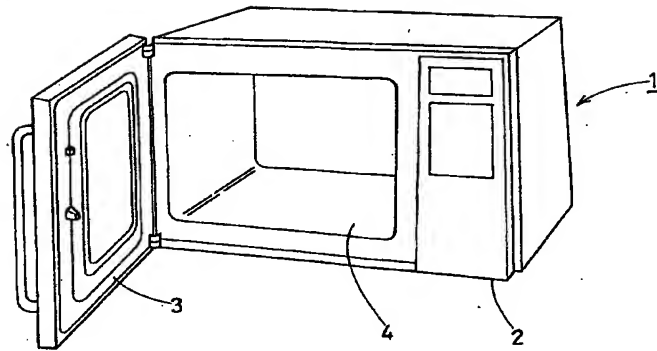
図面の簡単な説明

第1図は、この考案が適用される電子レンジの一例を示す斜視図である。第2図は、第1図に示

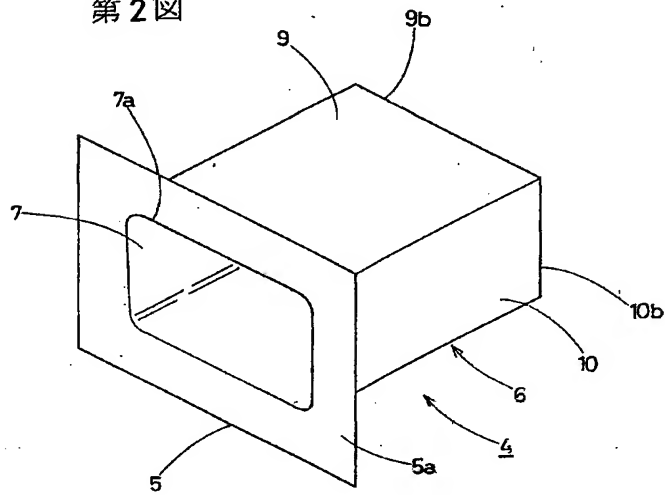
した電子レンジの内箱を略図的に示す斜視図である。第3図は、第2図の内箱の接合構造を詳細に示す部分切欠き斜視図である。第4図および第5図は、従来の調整機器の内箱における前板と胴部とのカーリング加工の接合構造を示す部分切欠き断面図である。第6図は、この考案の一実施例を製造する工程を示す斜視図である。第7図は、この考案の一実施例に用いられる前板を後方から見た斜視図である。第8図は、第7図のⅧで示した部分の拡大斜視図である。第9図は、係止突起を拡大して示す斜視図である。第10図および第11図は、この考案の一実施例の接合構造を説明するための部分切欠き断面図である。第12図は、係止突起の他の例を示す略図的斜視図である。

図において、4は調理機器の内箱、5は前板、6は胴部、7は開口部、7aは開口周縁部、8は後板、9a、10aは後板、9a、10aは胴部的前端縁、9b、10bは胴部の後端縁、27は前板開口周縁の折曲部、18は天板前端縁の折曲部、200は孔、201は係止突起を示す。

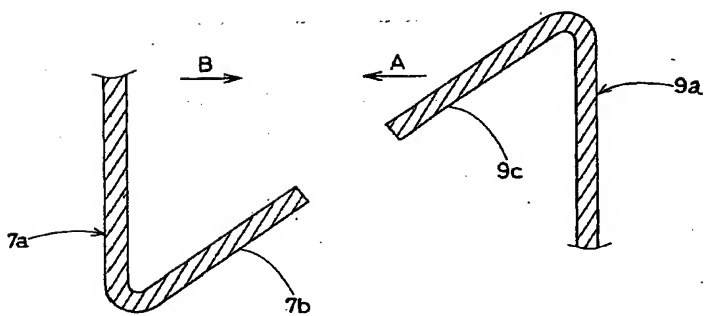
第1図



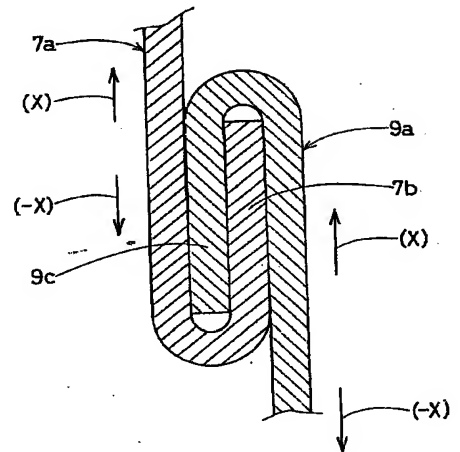
第2図



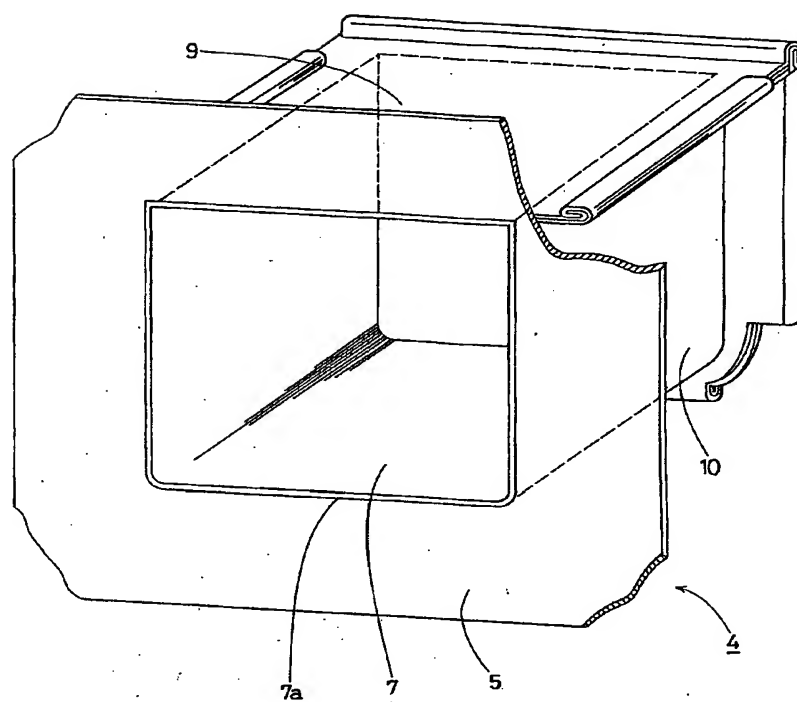
第4図



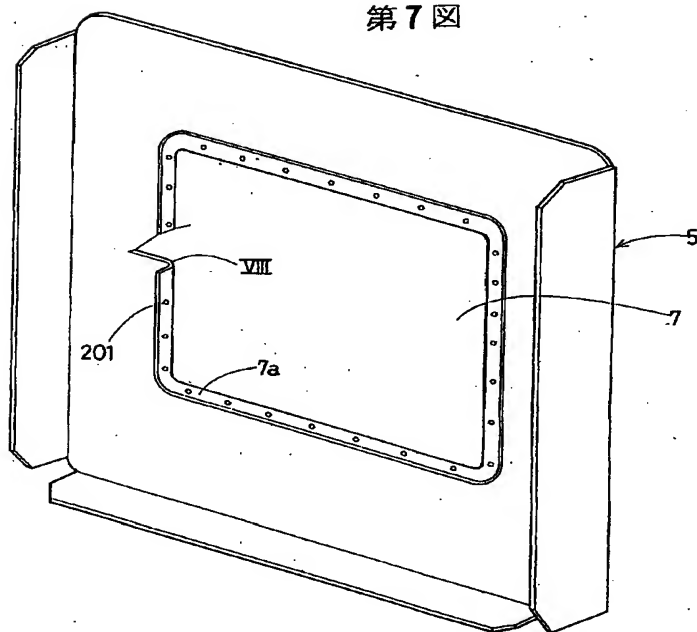
第5図



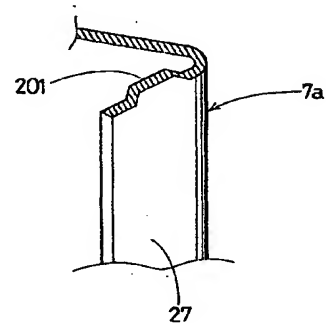
第3図



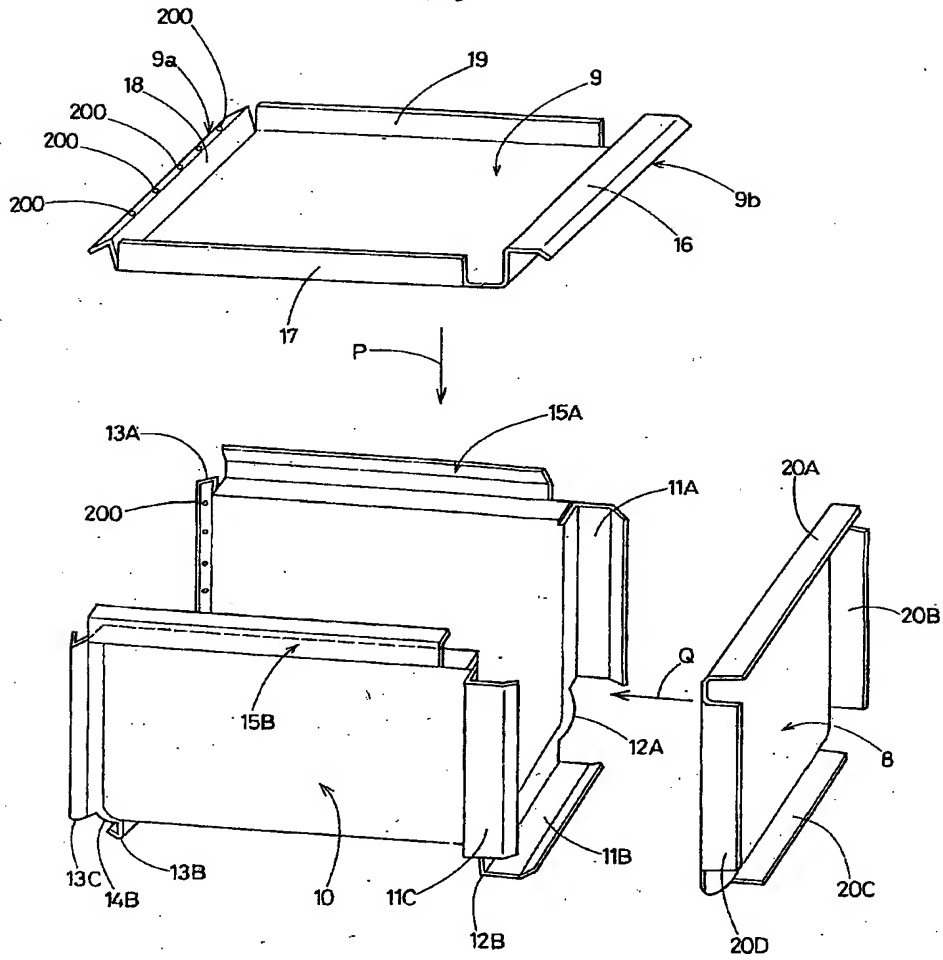
第7図



第8図

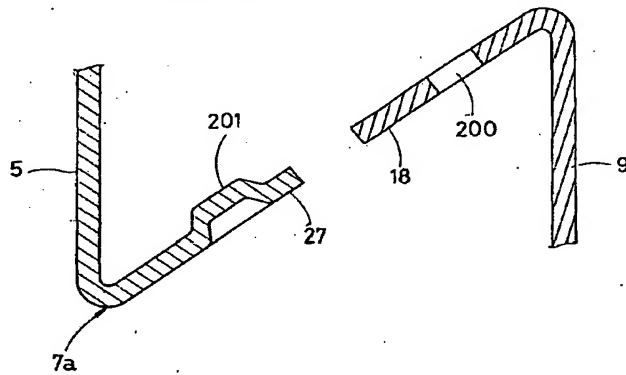
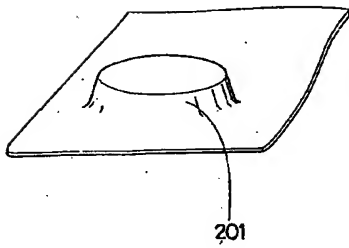


第 6 図

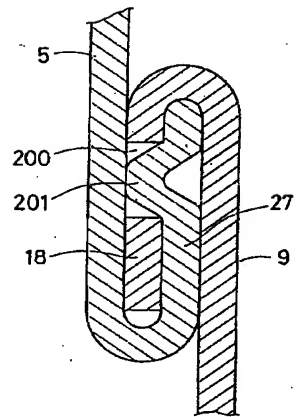


第 10 図

第 9 図



第11図



第12図

